

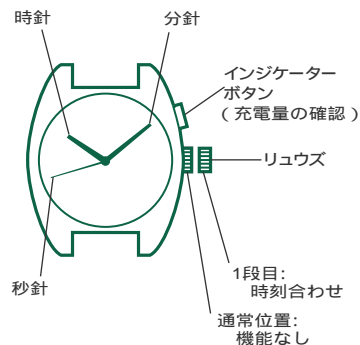
製品の特長

一般のクォーツ式腕時計はボタン電池で動きますが、セイコー KINETIC は「時計を振る」ことによって内蔵された発電機が回され、発電した電気をキネティック E.S.U. に蓄えて時計を動かすという SEIKO 独自の機構を持ったクォーツ時計です。従って、電池交換の必要はありません。あと何日動くかを針の動きでお知らせするインジケーター付きです。

注意

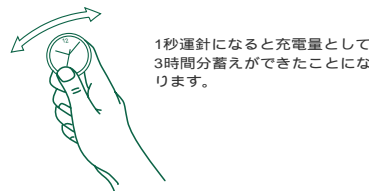
- あなたの腕の動きを電気に変換して蓄える方式です。静止したままでは充電されません。
- 目安として一日 10 時間以上の携帯をおすすめします。
- 充電量が残り少なくなりますと、秒針が一度に 2 目盛ずつ運針(以下 2 秒運針と略します)してお知らせします。「充電のしかた」をよくお読みになって充電してください。

各部の名称とはたらき



ご使用にあたって 充電のしかた

- 止まっている時計を動かす場合や、充電量が少なくなった場合に行ってください。
- ① 時計を下図のように矢印の方向に振ってください。1秒間に2往復のリズムで、約100回(往復)振ってください。約3時間分の蓄えができたこととなります。この時、秒針の動きは2秒運針から通常の1秒運針になります。
- ② さらに振り続けて1日分程度の充電をしてから携帯することをお勧めします。この時計はフル充電で「3日」以上の充電量を得られますが、初めにフル充電にしておく必要はありません。1日分の充電量を確保するためには約350～400回(往復)が必要です。



1秒間に2往復程度の早さで、約20cm位の距離を往復させる様に振っていただくことが最も効果的です。
極端に早く激しく振っても効率の良い充電はできません。
発電機を回す回転音の音が聞こえますが異常ではありません。

蓄えられた充電量はインジケーターで調べることができます。(この右「インジケーターの使いかた」を参照)
手振りによる充電直後は、インジケーターの示す充電量が若干多めに出る可能性がありますので、10～15分後に再度ご確認ください。
フル充電状態からさらに充電しても過充電防止回路が働きますので、安心してお使いいただけます。

充電量を調べるには? (インジケーターの使いかた)

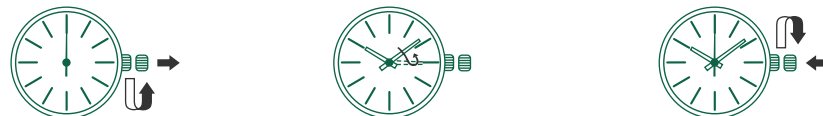
- 発電し蓄えられた充電量を調べることができます。
- 今からどのくらい動き続けるか(持続時間)が分かります。
- ボタンを押すと運針中の秒針が早送りし、その早送りする秒数で持続時間を示します。
- 携帯中に充電状態を確認する時や腕から外しておく時など、後どのくらい動き続けるかを確認できます。

インジケーターが表示する意味

インジケーターはキネティック E.S.U. に蓄えられた充電量を調べ、4段階の表示で示します。但し、段階的で幅を持った表示のため時計が動きつづける時間を細かくは表示できません。

ご使用方法 時刻の合わせかた

充電ができれば、時刻を合わせてください。



- ① リュウズを1段引き出すと秒針が止まります。リュウズが引き出せない(ネジロック式リュウズ)モデルはリュウズを左に回してネジをゆるめリュウズを1段引き出すと秒針が止まります。秒針は12時の位置に止めてください。
- ② リュウズをまわして針を合わせます。
- ③ 時報と同時にリュウズを押し込みます。ネジロック式リュウズモデルはリュウズを押しつげながら右に止まるところまでネジ込んでください。

午前・午後を間違えないように合わせてください。(日付は24時間に1度変わるように設定されています。)
正確に合わせるためには、分針を正しい時刻より4～5分進めてから、逆にもどして合わせてください。
時刻合わせは、電話の時報サービス TEL117 が便利です。

使用電源キネティックE.S.U.についてのご注意

この時計は一般の電池の代りに専用のキネティック E.S.U. を電源として使用していますので、電池交換は不要です。

時計を保管する際、リュウズを引き出して運針を止めてもIC制御の電流が消費されるため、充電量(持続時間)の維持はできませんのでご注意ください。

警告

破裂、発熱、発火などの恐れがありますので、一般の銀電池は絶対に組み込まないようご注意ください。

ルミブライトについて

「お買い上げの時計がルミブライトつきの場合」
• ルミブライトは放射性物質等を全く含んでいない環境・人に安全な蓄光(蓄えた光を放出する)物質を使用しています。ルミブライトは太陽光や照明器具の明りを短時間(約10分間:500ルクス以上)で吸収して蓄え、暗い中で長時間(約3～5時間)光を放つ夜光です。なお、蓄えた光を発光させていますので、輝度(明るさ)は時間が経つに従ってだんだん弱まってきます。また、光を蓄える際のまわりの明るさや時計との距離、光の吸収度合により光を放つ時間には多少の誤差が生ずることがあります。

インジケーター30秒表示について

- 充電を確認した際に、30秒の早送りをした場合、約3日以上持続時間があることを示します。
- 充電量としては、約3日以上で最大約4日の幅がありますが、その中のどのくらいかは分かりません。
- 最大に充電できた場合は、約4日間動き続けます。

2秒運針になったら(秒針が一度に2目盛ずつ運針する状態)

- 携帯中もしくは、外に置いてある時計が、2秒運針を始めると、3時間以内に止まる可能性がありますので充電をしてください。(「充電のしかた」を参照)

2秒運針中でも時刻表示は正常です。

インジケーターの表示

	5秒	10秒	20秒	30秒
秒針の早送り量				
充電量 持続時間	約3時間～約1日	約1日～約2日	約2日～約3日	約3日以上

例 インジケーターの表示が「20秒」を示した場合は、約2日間～約3日間の持続時間があるという意味になります。約2日間以上の持続時間があることとなりますが、約2日～3日の幅をもった表示になりますので、2日ちょうどなのか3日近くあるのかわかりません。

インジケーターで示す持続時間は目安としてお使いください。インジケーターの表示が実際の持続時間と異なる場合があります。
早送り後、秒針はその位置にとどまり、その後は正確な時刻を示します。インジケーターは2回まで続けてご使用できます。つまり、秒針が充電量を示し、一時的に留まっている最中にもう一度ボタンを押すと、再び秒針が早送ります。よって「10秒」の表示をした場合は、1回と2回とで20秒分早送りすることになります。充電量はあくまでも「10秒表示」分の意味です。もう一度確認する場合は、秒針が通常運針になってからボタンを押してください。2秒運針時は、インジケーター機能はありません。